

グローバル・ハイ・イールド債券の魅力と今後の見通し

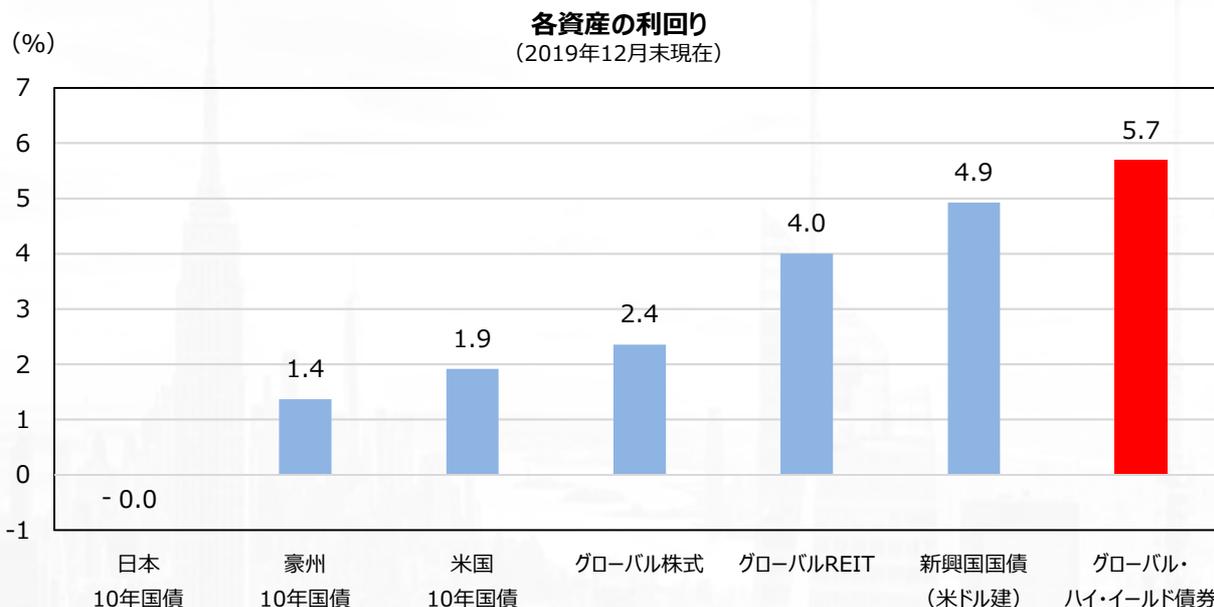


世界的な低金利環境が継続する中、資産運用において高い利回りを獲得することは困難になっています。そうした環境下でも、グローバル・ハイ・イールド債券は相対的に高い利回りを獲得できるとともに、良好なパフォーマンスを期待できる資産の一つと言えます。当レポートでは、グローバル・ハイ・イールド債券の魅力をお伝えするとともに、グローバル・ハイ・イールド債券市場の今後の見通しをご紹介します。

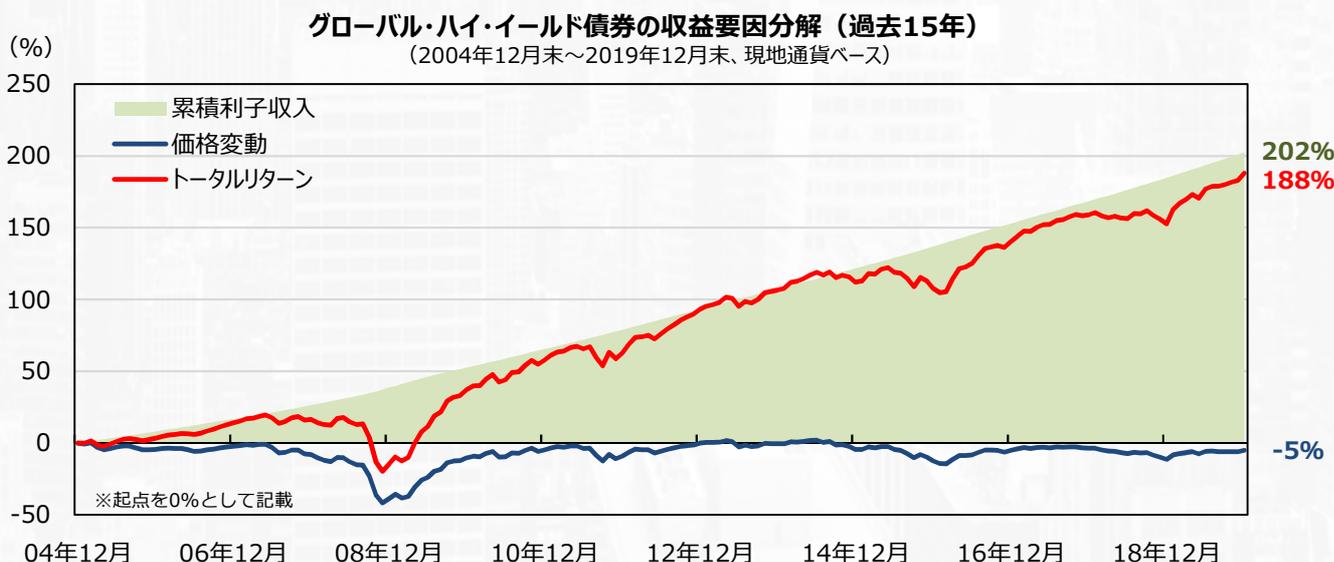
グローバル・ハイ・イールド債券の魅力

グローバル・ハイ・イールド債券の魅力① 高い利回り

- グローバル・ハイ・イールド債券は、グローバル株式やグローバルREITと比較して相対的に高い利回りを獲得できることが魅力です。



- グローバル・ハイ・イールド債券は相対的に利回りが高いため、高い利子収入が得られます。利子収入はマイナスになることがなく着実に積み上がるとともに、価格下落局面におけるパフォーマンスの下支えとなることが期待されます。



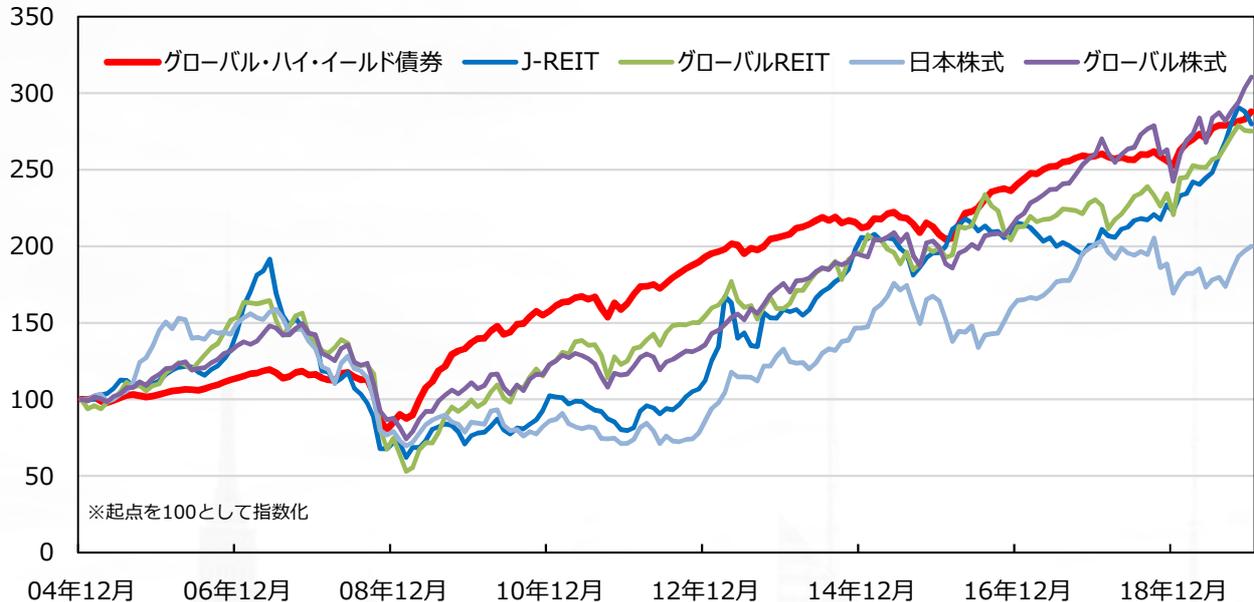
※複利効果等その他の要因により、累積利子収入と価格変動の合計値とトータルリターンの値は必ずしも一致しません。

※上記は、過去の実績であり将来の運用成果等を保証するものではありません。
 グローバル・ハイ・イールド債券：ICE BofAML グローバル・ハイ・イールド・コンストレインド・インデックス、グローバル株式：MSCIワールド・インデックス、グローバルREIT：S&P先進国REITインデックス、
 新興国国債（米ドル建）：JPモルガンEMBIグローバル・ダイバーシファイド・インデックス
 出所：ブルームバーグのデータを基にBNYMellon・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成

グローバル・ハイ・イールド債券の魅力② 堅調なパフォーマンス

- グローバル・ハイ・イールド債券は、グローバル株式やグローバルREITと比較して相対的に安定して推移するとともに堅調なパフォーマンスを上げてきました。安定したパフォーマンスの要因の一つとして、前ページで紹介した利子収入の着実な積み上げが挙げられます。

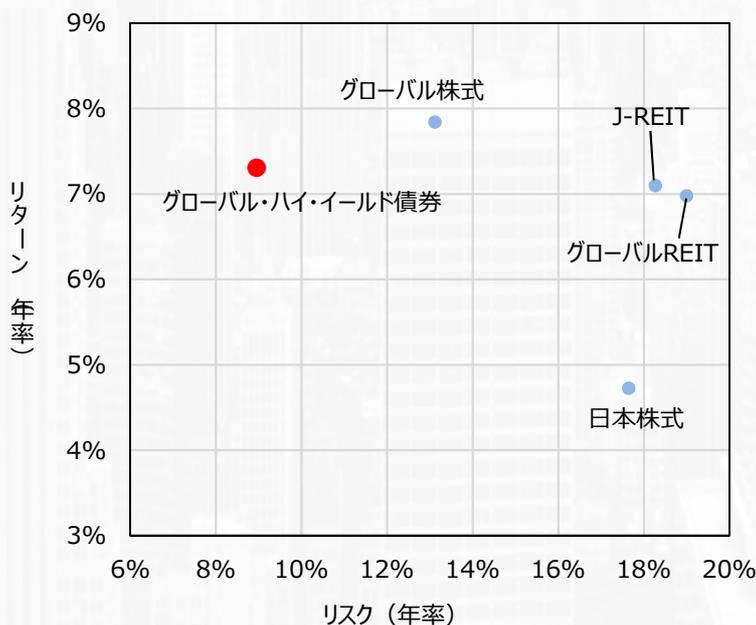
各資産のパフォーマンスの推移（過去15年）
（2004年12月末～2019年12月末、現地通貨ベース（グローバルREITのみ米ドルベース））



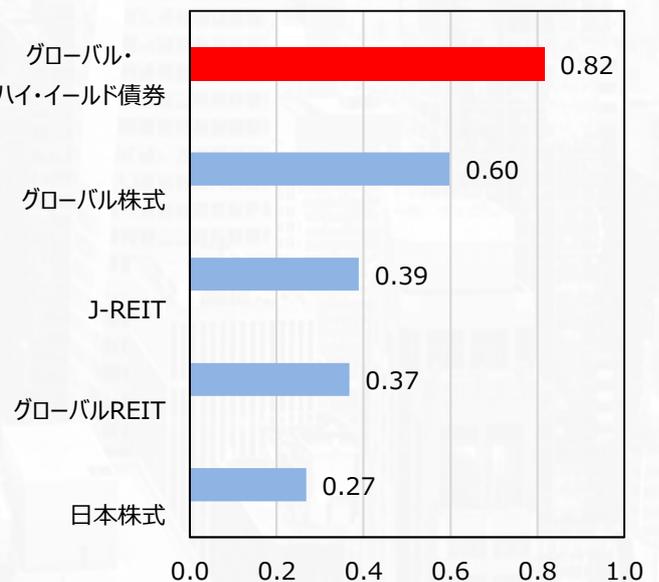
グローバル・ハイ・イールド債券の魅力③ 高い投資効率

- グローバル・ハイ・イールド債券は、グローバル株式やグローバルREITと比較してリスクが低い一方で、概ね同水準のリターンを獲得してきました。そのため、グローバル・ハイ・イールド債券の投資効率は相対的に高水準となっています。

各資産のリスク・リターン分布（過去15年）
（2004年12月末～2019年12月末、
現地通貨ベース（グローバルREITのみ米ドルベース））



各資産の投資効率（リターン／リスク）（過去15年）
（2004年12月末～2019年12月末、
現地通貨ベース（グローバルREITのみ米ドルベース））



※上記は、過去の実績であり将来の運用成果等を保証するものではありません。

グローバル・ハイ・イールド債券：ICE BofAML グローバル・ハイ・イールド・コンストレインド・インデックス、J-REIT：東証REIT指数（配当込み）、グローバルREIT：S&P先進国REITインデックス（配当込み）、日本株式：TOPIX（配当込み）、グローバル株式：MSCIワールド・インデックス（配当込み）

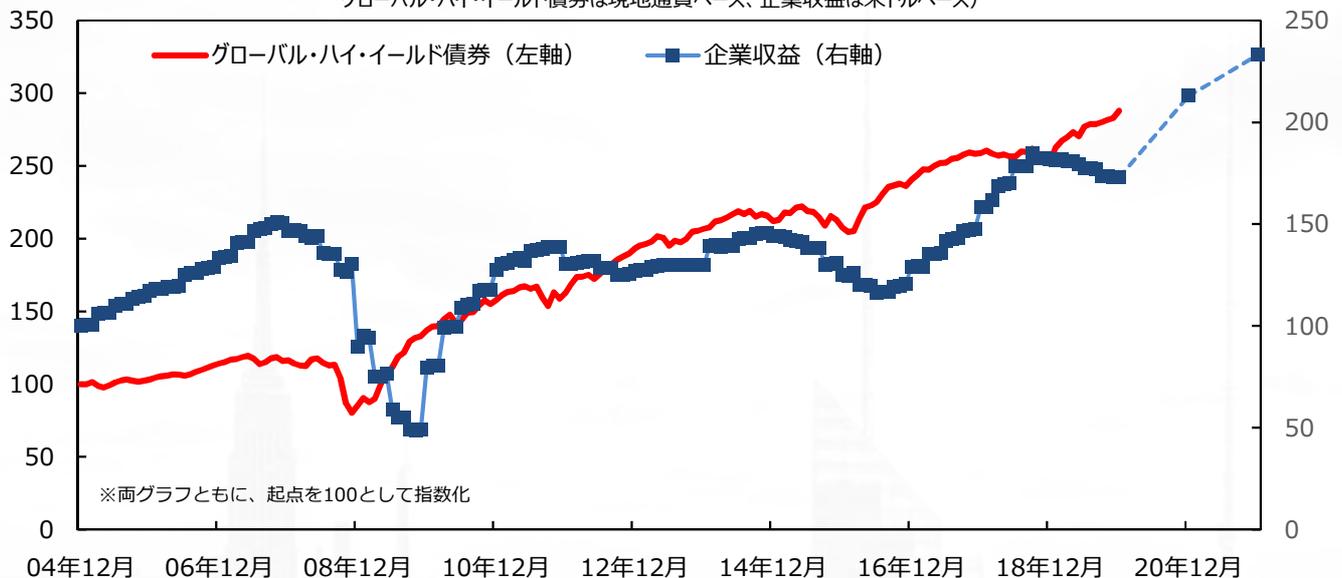
出所：ブルームバーグのデータを基にBNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成

グローバル・ハイ・イールド債券市場 今後の見通し

企業業績の回復を背景に、グローバル・ハイ・イールド債券市場は堅調な推移が期待される

- グローバル・ハイ・イールド債券のパフォーマンスは、企業業績と緩やかに連動する傾向がみられます。2018年以降、米中貿易摩擦などを背景に企業業績は下振れしてきましたが、足下では米中通商協議の部分合意などを受け、業績底入れの兆しが見られます。**2020年以降は業績の本格的な回復が見込まれていることから、グローバル・ハイ・イールド債券も堅調な推移が期待されます。**

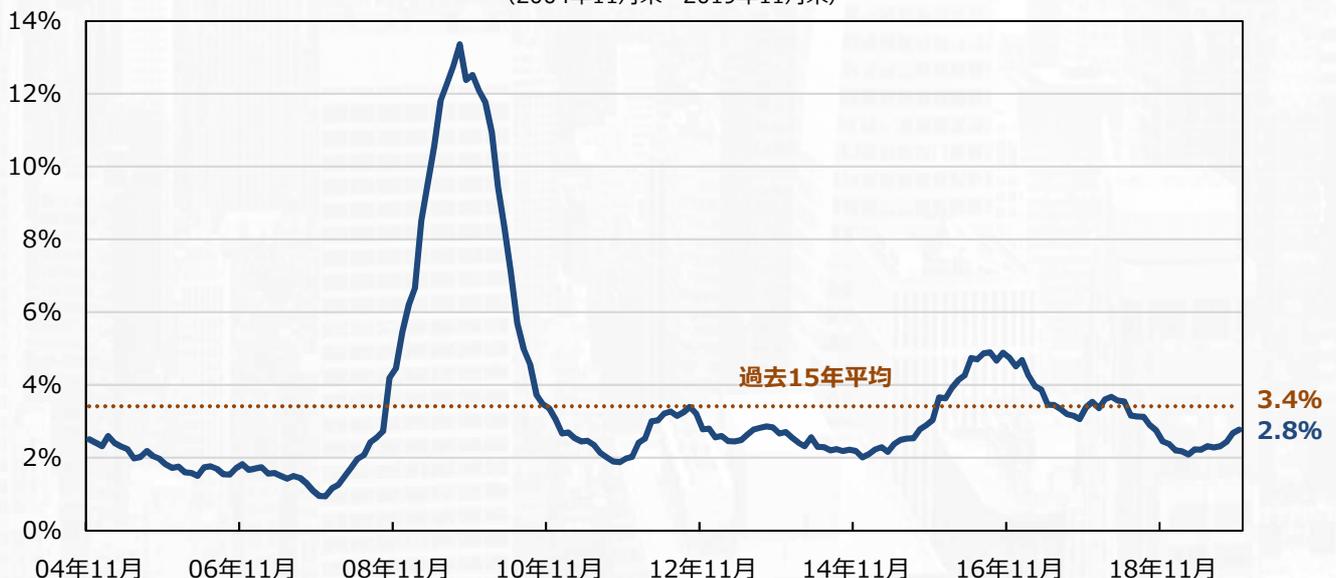
グローバル・ハイ・イールド債券のパフォーマンスと企業収益の推移
(2004年12月末～2021年12月末 (グローバル・ハイ・イールド債券は2019年12月末まで)、
グローバル・ハイ・イールド債券は現地通貨ベース、企業収益は米ドルベース)



※企業収益は、MSCIワールド・インデックスベースの1株当たり利益（EPS）。
※2020年12月末、2021年12月末の企業収益は2019年12月末時点のブルームバーグ予想値。

- ハイ・イールド債券は相対的に信用力の低い債券であるため、デフォルト（債務不履行）には注意が必要です。しかしながら、**足下ではグローバル・ハイ・イールド債券のデフォルト率は過去平均を下回っており、デフォルトによる価格下落リスクは過去と比べ相対的に低いと考えられます。**

グローバル・ハイ・イールド債券のデフォルト率の推移（過去15年）
(2004年11月末～2019年11月末)



※上記は、過去の実績であり将来の運用成果等を保証するものではありません。
グローバル・ハイ・イールド債券：ICE BofAML グローバル・ハイ・イールド・コンストレインド・インデックス
出所：Moody'sおよびブルームバーグのデータを基にBNY Mellon・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成

<投資信託に係るリスクについて>

投資信託は一般的に、株式、債券等様々な有価証券へ投資します。有価証券は市場環境、有価証券の発行会社の業績、金利の変動等により価格が変動するため、投資信託の基準価額も変動し、損失を被ることがあります。また、外貨建の資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。そのため、投資信託は元本が保証されているものではありません。

又、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては各投資信託の投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

<投資信託に係る重要な事項について>

- 投資信託によっては、海外の証券取引所の休業日等に、取得、換金の申し込みの受付を行わない場合があります。
- 投資信託によっては、クローズド期間として、原則として換金が行えない期間が設けられていることや、1回の解約金額に制限が設けられている場合があります。
- 分配金の額は、投資信託の運用状況等により委託会社が決定するものであり、将来分配金の額が減額されることや、分配金が支払われないことがあります。

<投資信託に係る費用について>

投資信託では、一般的に以下のような手数料がかかります。手数料率はファンドによって異なり、下記以外の手数料がかかること、または、一部の手数料がかからない場合もあるため、詳細は各ファンドの販売会社へお問い合わせいただくか、各ファンドの投資信託説明書（交付目論見書）等をご覧ください。

- 申込時に直接ご負担いただく費用・・・申込手数料 上限3.5%（税抜）
- 換金時に直接ご負担いただく費用・・・信託財産留保額 上限0.70%
- 投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用・・・信託報酬 上限 年率1.87%（税抜）
- その他費用・・・上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。

※上記費用の総額につきましては、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、BNY Mellon・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収する夫々の費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、夫々の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に良く投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をご覧ください。

<ご留意事項>

- 当資料は、BNY Mellon・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が情報提供を目的として作成した資料であり、特定の有価証券の勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料は信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性・完全性について保証するものではありません。
- 当資料に掲載されている数値、図表等は、特に断りのない限り当資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに今後変更されることがあります。
- 当資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。
- ファンドに生じた損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。



BNY MELLON
INVESTMENT MANAGEMENT

BNY Mellon・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第406号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

BNY Mellon・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社は、2020年4月1日をもって商号を「BNY Mellon・インベストメント・マネジメント・ジャパン株式会社」に変更する予定です。2020年4月1日以降、当社名を表す記載につきましては、「BNY Mellon・インベストメント・マネジメント・ジャパン株式会社」とお読み替えてください。